

「男女共同参画と広報に関するアンケート」結果

一人ひとりが性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮し、自分らしく生きられる男女共同参画社会の実現に取り組むため、また、県の情報の入手方法やテレビの視聴状況など、今後の広報業務の参考とさせていただくため、アンケートを実施しました。

結果、702名の方からご回答をいただきました。アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆さんにはお礼を申し上げますとともに、その結果について下記のとおり取りまとめましたので、ご報告いたします。

(1) アンケート実施期間

平成31年2月22日（金）～平成31年3月8日（金）

(2) アンケート回収状況

対象者数 1,142名
回答者数 702名
回答率 61.5%

(3) 回答者属性

・年代別

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
2人	37人	139人	202人	154人	131人	37人
0.3%	5.3%	19.8%	28.8%	21.9%	18.7%	5.2%

・地域別

北勢地域	中南勢地域	伊勢志摩地域	伊賀地域	東紀州地域
354人	192人	80人	59人	17人
50.4%	27.4%	11.4%	8.4%	2.4%

※北勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、桑名郡、員弁郡、三重郡

中勢：津市、松阪市、多気郡

伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡

伊賀：名張市、伊賀市

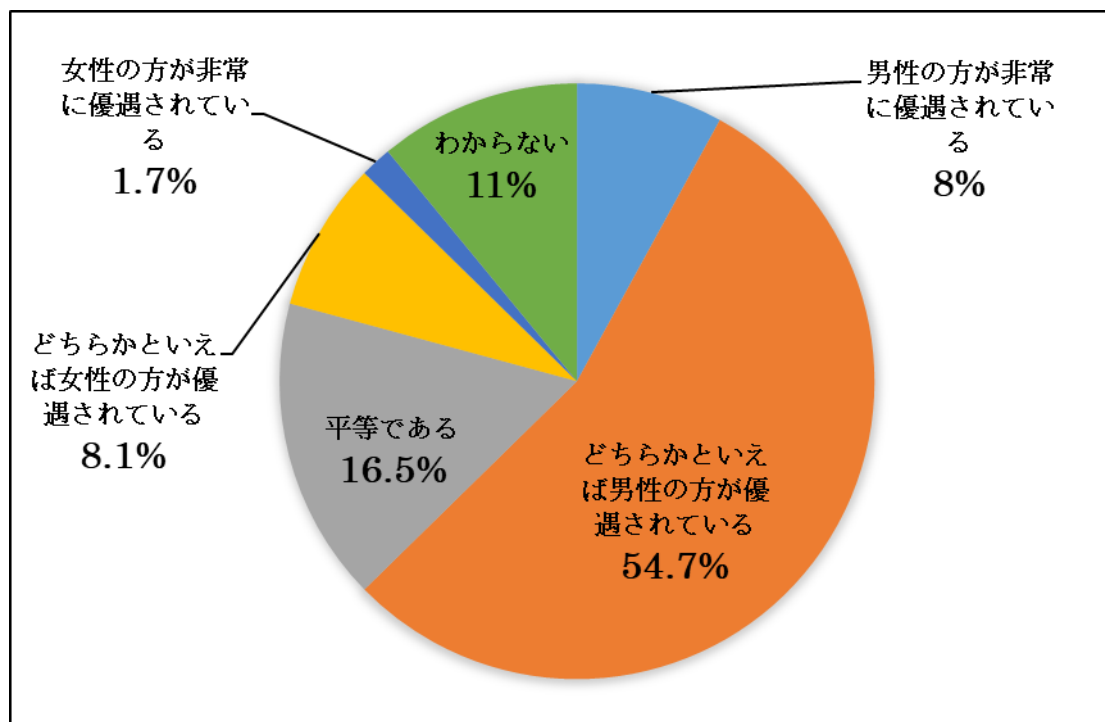
東紀州：尾鷲市、熊野市、北牟婁郡、南牟婁郡

(4) アンケート結果

Q1～Q2は、社会全体における男女平等についての設問です。

Q1 男女平等について（社会全体）

あなたは、社会全体で、男女の地位が平等になっていると思いますか。



「平等である」の割合は16.5%であり、昨年の19.1%より2.6ポイント、一昨年の22.1%より5.6ポイント減少しました。

性別による優遇感については、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は62.7%で、昨年の56.1%より6.6ポイント、一昨年の56.6%より6.1ポイント増加しており、平等感が減少するとともに、男性の優遇感が増加していることが窺えます。

項目	H30年度		H29年度		H28年度		H30—H28
	割合	累積	割合	累積	割合	累積	
男性の方が非常に優遇されている	8.0%	62.7%	8.3%	56.1%	7.5%	56.6%	6.1
どちらかといえば男性の方が優遇されている	54.7%		47.8%		49.1%		
平等である	16.5%		19.1%		22.1%		▲5.6
どちらかといえば女性の方が優遇されている	8.1%	9.8%	8.6%	10.7%	7.6%	9.1%	0.7
女性の方が非常に優遇されている	1.7%		2.1%		1.5%		
わからない	11.0%		14.1%		12.3%		▲1.3

男女別に比較すると、「平等である」の割合は、男性が 21.5%に対して女性が 10.9%と 10 ポイント以上の差があり、女性に比べて男性の方が平等感が高い傾向にあります。

また近年の平等感の減少と男性の優遇感の増加については、男性・女性ともに同様の傾向であることが窺えます。

<男女別>

項 目	男性				女性			
	H30	H29	H28	H30-H28	H30	H29	H28	H30-H28
男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている	53.9%	44.8%	47.3%	6.6	72.2%	67.0%	65.5%	6.7
平等である	21.5%	23.2%	28.1%	▲6.6	10.9%	15.0%	16.3%	▲5.4
どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	15.9%	17.0%	14.5%	1.4	3.3%	4.8%	3.9%	▲0.6
わからない	8.7%	15.0%	10.1%	▲1.4	13.6%	13.2%	14.4%	▲0.8

年代別に比較してみると、「平等である」の割合は、年代により差異はあるものの、はっきりとした傾向は見られません。

しかしながら、男性の優遇感については、年代が上がるほど高くなる傾向が窺えます。

<年代別>

項 目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている	50.0%	56.7%	56.1%	59.4%	69.4%	65.6%	73.0%
平等である	50.0%	16.2%	19.4%	17.3%	8.4%	19.8%	21.6%
どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	0%	10.8%	8.7%	11.4%	12.3%	6.9%	5.4%
わからない	0%	16.2%	15.8%	11.9%	9.7%	7.6%	0%

Q2 男女平等について（理由）

「平等である」、「わからない」以外を選択された方に対し、優遇されていると考える理由をたずねたところ、次のようなご意見がありました。

（「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）

- ・医学部の入試の件は、まさに女性差別である。
- ・未だに女は家庭、男は仕事と思われており、女性は例え仕事をしていても、家事や育児も完璧にやらなければいけないという価値観の押し付けに苦しめられている。
- ・結婚、出産、子どもの成長、家族の事情などに応じて働き方を考えなければならないのは、ほぼ女性である。
- ・会社での昇進や重要な役割を任されるのは、依然として男性が多い。
- ・お客様への対応時に、女性だから男性に代わってほしいと言われることがある。
- ・子連れの父親への風当たりは優しいが、子連れの母親には厳しい視線が集まる。
- ・出産という女性にしか出来ないことに対して、社会としてプラス評価されることが少ない。
- ・男が作り上げた社会なので当然男が優遇されている。社会構築自体を男女で造り替えなくては変わらない。
- ・地域でも自治会長は男性が優遇（世間の認め）があるように思う。各市町はもっと女性活用の働きかけをすべき。
- ・男女の特徴を考慮し、本人が望む形で平等な機会が与えられればよいが、今は少し男性が優位になっている。

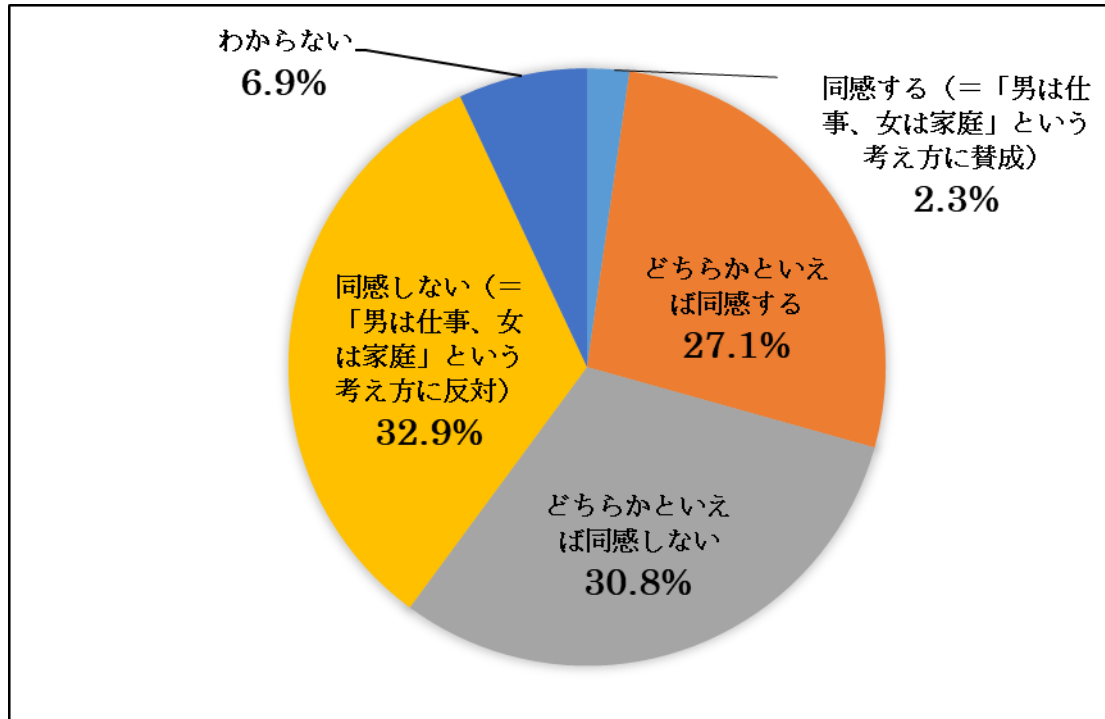
（「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）

- ・大学には女子大があり、女性の方が入学の間口が広い。
- ・女性登用の数値目標があるせいで、男性と同程度または劣っていても昇進している。
- ・女性の方が仕事の割り振りや責任を問われる度合いが低い。
- ・女性は力仕事を軽減されたり、休みやすかったりする。
- ・セクハラに関しては、女性の言い分だけが認められ、男性が苦しめられている。
- ・女性専用車両やレディースデーなど、女性に特化したサービスはあるのに、男性に特化したものはない。

Q3は、固定的役割分担意識や性別意識についての設問です。

Q3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。



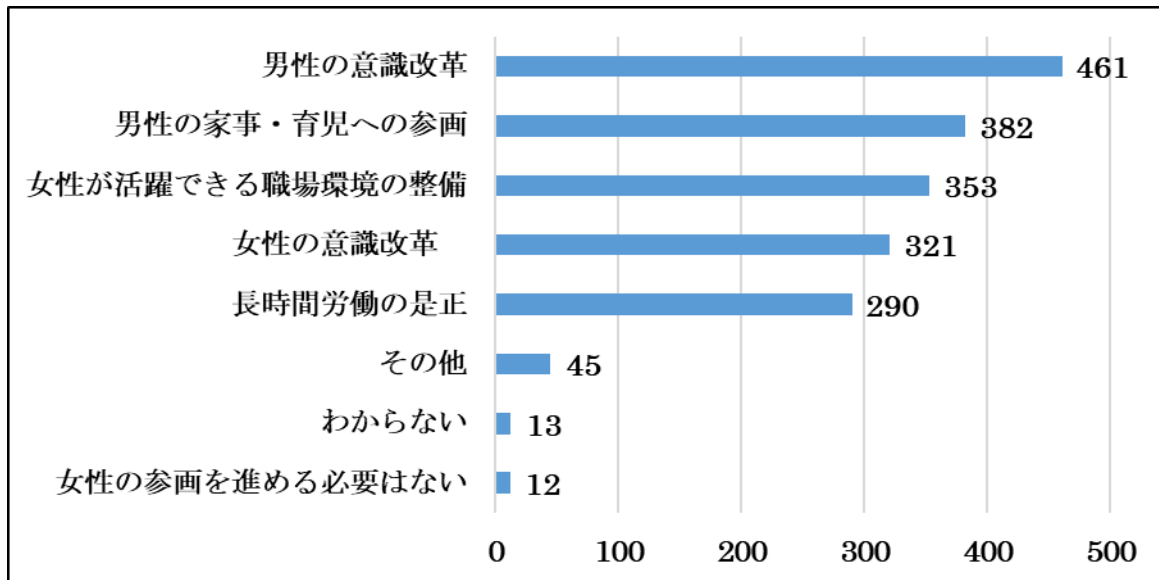
「同意しない（＝「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対）」「どちらかといえば同意しない」を合わせた割合は63.7%で、昨年の62.8%より0.9ポイント、一昨年の55.7%より8ポイント増加しました。

また、「同意する（＝「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成）」「どちらかといえば同意する」を合わせた割合は29.4%で、昨年の29.8%より0.4ポイント、一昨年の37.0%より7.6ポイント減少し、固定的役割分担意識が徐々に改善されてきていることが窺えます。

Q4は、男女共同参画の推進についての設問です。

Q4 男女共同参画の推進について

今後、男女共同参画を推進していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものを全て選択)



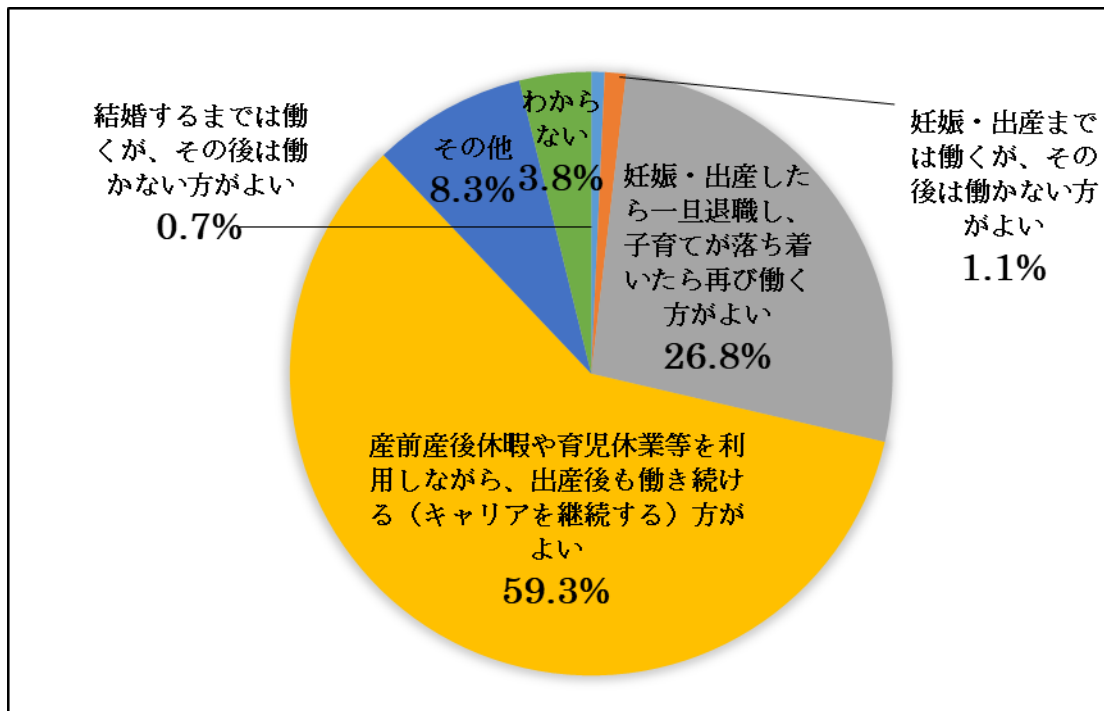
今後、男女共同参画を推進していくために必要なことについては、「男性の意識改革 (461 件)」、「男性の家事・育児への参画 (382 件)」、「女性が活躍できる職場環境の整備 (353 件)」が上位を占め、昨年同様、男性側の対応を求める声が多く聞かれました。

また「その他」を選択された方からは、「男性・女性に関わらず、社会全体の意識改革が必要」「企業が多様な働き方を認め、個人の希望に応じた役割が果たせるようにすべき」などのご意見もいただきました。

Q5～Q6は、女性の働き方についての設問です。

Q5 女性の働き方について（考え方）

あなたは、女性が働くことについて、どのようにお考えですか。



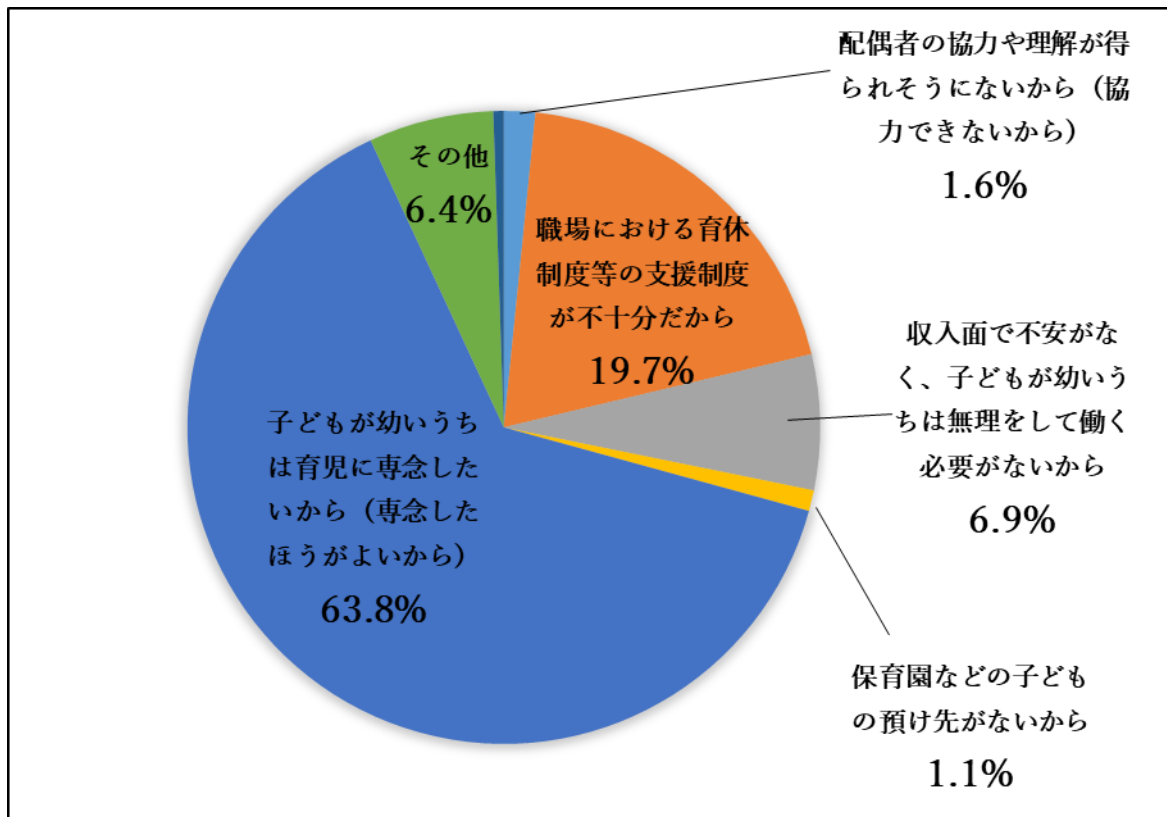
昨年は、「妊娠・出産したら一旦退職し、子育てが落ち着いたら再び働く方がよい」という「キャリア中断型」の回答割合が最も高く 47.1%を占めましたが、今回は「産前産後休暇や育児休業等を利用しながら、出産後も働き続ける方がよい」という「キャリア継続型」の回答割合が 59.3%で最多となり、「キャリア中断型」の回答割合は 26.8%に減少しました。

また「その他」を選択された方からは、「個々の家庭での判断」「本人や家族の希望に応じて選択できる環境がよい」といった、個別の判断を避けるご意見を多くいただきました。

固定的役割分担意識とともに、女性の働き方に関する意識も大きく変化してきていることが窺えます。

Q6 女性の働き方について（理由）

Q5で「妊娠・出産したら一旦退職し、子育てが落ち着いたら再び働く方がよい」を選択された方におたずねします。なぜ、そのように考えますか。



昨年に続き「子どもが幼いうちは育児に専念したいから（専念したほうがよいから）」を選んだ方の割合が63.8%と最も高い結果となり、依然として女性が仕事を中断する大きな要因となっています。

次に「職場における育休制度等の支援制度が不十分だから」が19.7%と続き、「その他」を選択された方からも「子どもが小さいうちは急に休まなければいけないことが多いから」「会社を退職しないと職場に人が補充されず迷惑をかけるから」といった、職場や同僚への配慮を優先するご意見がありました。

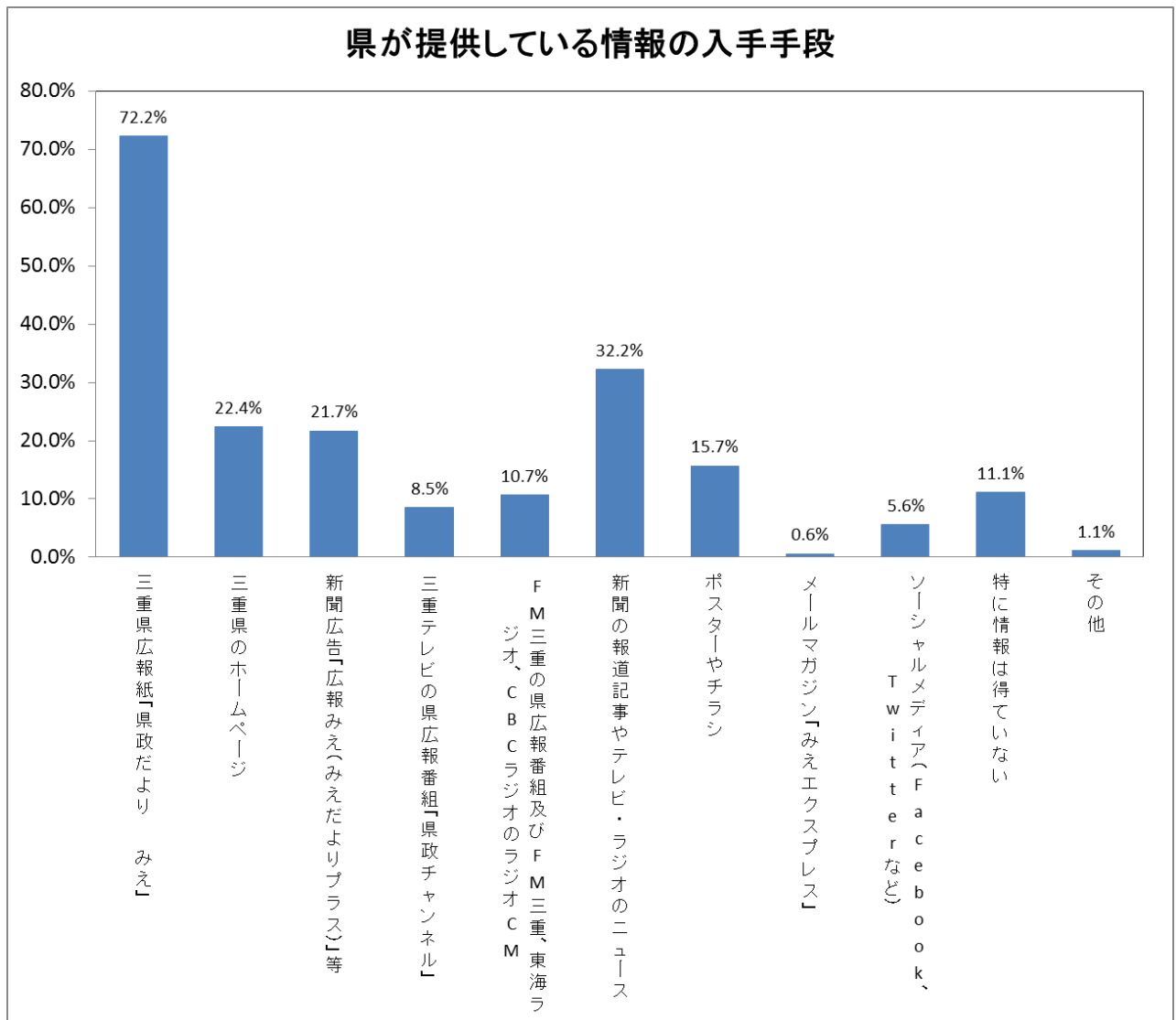
引き続き、仕事と家庭の両立のための制度や環境の整備が必要であることが窺えます。

Q8 県が提供している情報の入手手段について

あなたは、三重県が提供している情報（※）をどこから得ていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

※三重県が提供している情報とは、県の計画・政策・財政、募集案内、催し物案内、研修案内、各種統計、県有施設の案内、官公署の事務手続き方法等に関する情報のことです。なお、三重県データ放送「暮らしの便利帳」については、平成31年3月末で終了するため、選択肢に含めていません。

N=702



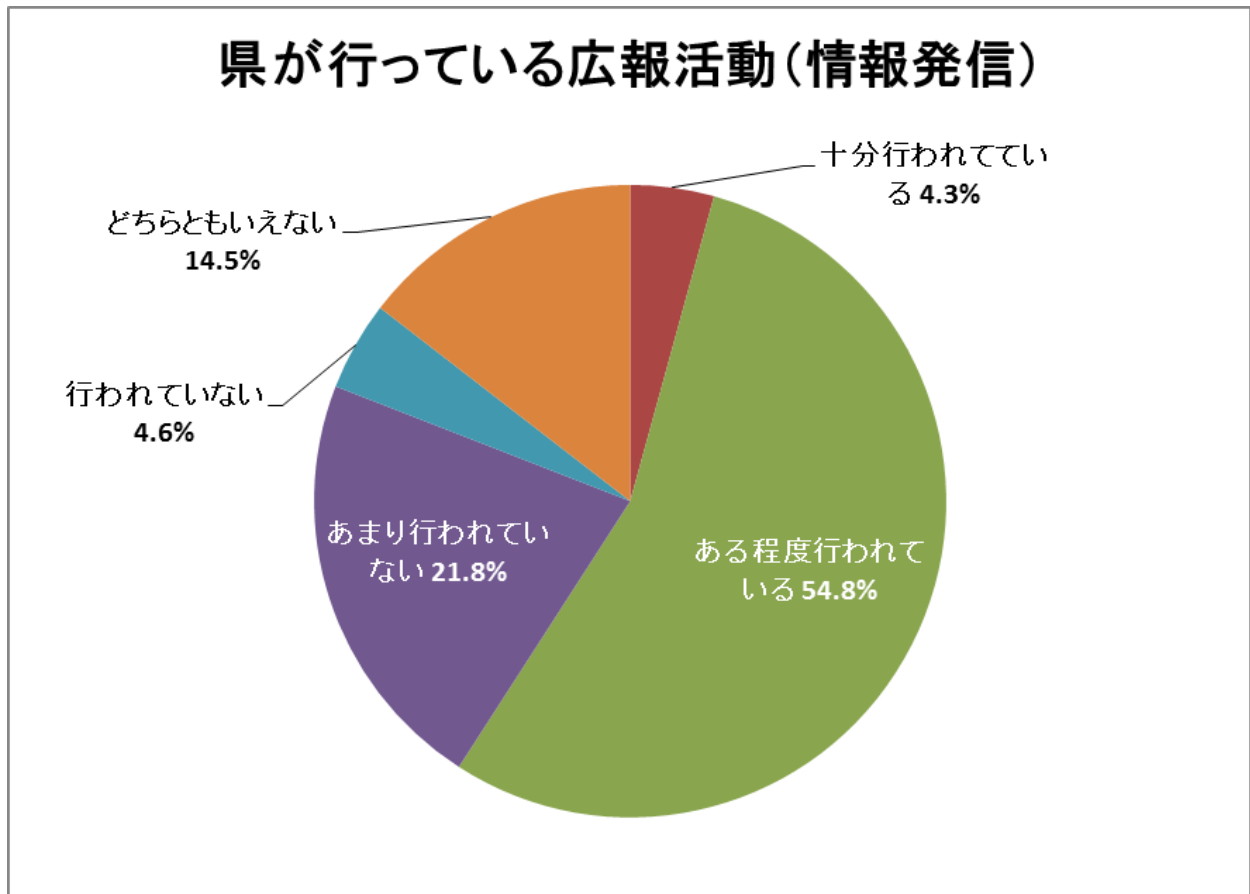
県の事業や催し物などの情報源については、「三重県広報紙『県政だより みえ』」が72.2%（507人）と最も多く、次いで、「新聞の報道記事やテレビ・ラジオのニュース」が32.2%（226人）、「三重県のホームページ」が22.4%（157人）などとなっています。

県民の皆さんの情報入手手段が多様化していることから、より効果的に広報活動を実施するため、広報紙、新聞やテレビ・ラジオ、県のホームページなど、それぞれの媒体の優れた点を生かし、今後も県の情報をより分かりやすく、適切に発信していきます。

Q9 県が行っている広報活動（情報発信）について

あなたは、県が行っている三重県広報紙、県のホームページ、テレビ・ラジオ、新聞などのさまざまな広報媒体を活用した県の広報活動（情報発信）は、十分に行われていると思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

N=702



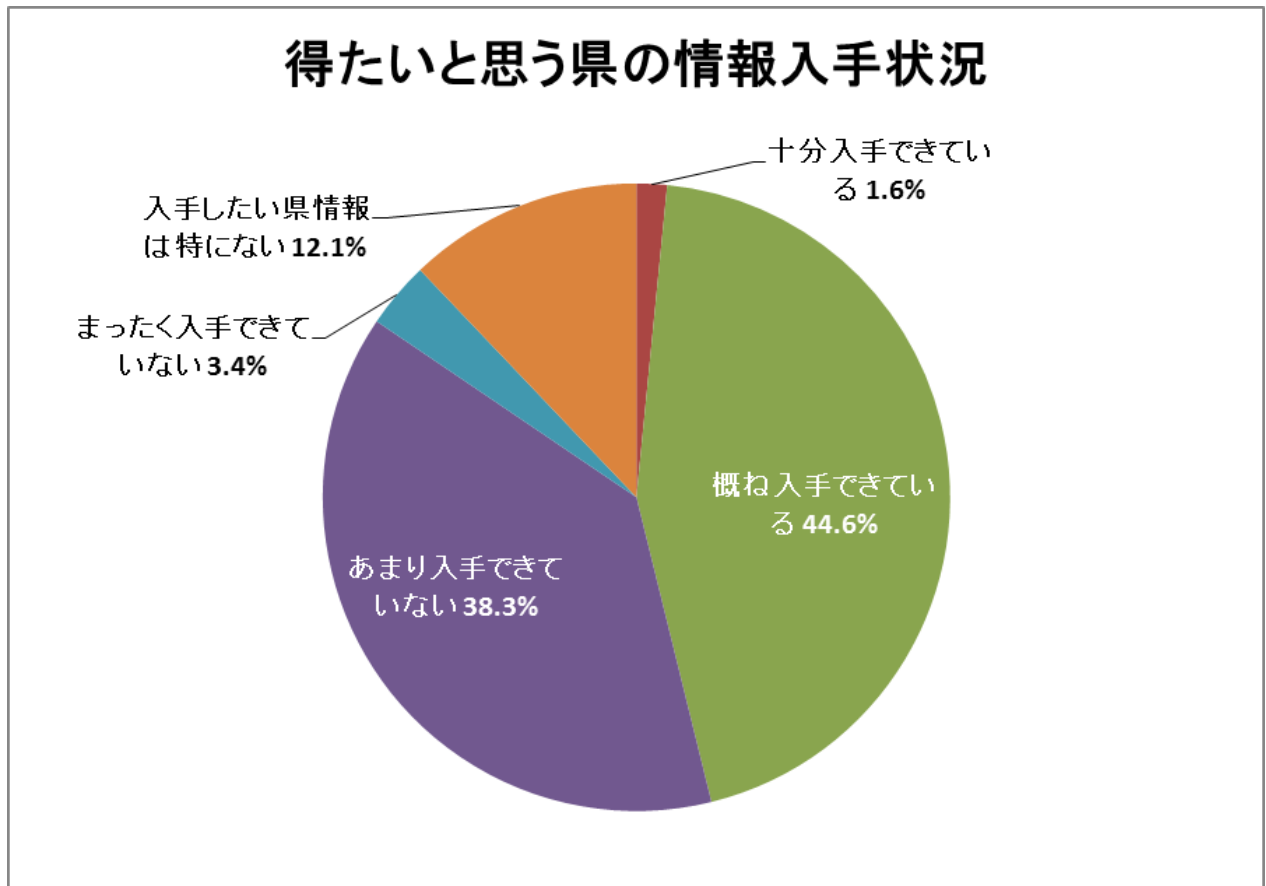
県の広報活動（情報発信）について「十分行われている」「ある程度行われている」を選択した方は、合わせて59.1%（415人）となっている一方で、26.4%（185人）の方は「あまり行われていない」「行われていない」と感じています。

今後も、県民の皆さんに県の情報を的確にお届けできるよう、各媒体の特性を生かし、さまざまな媒体を活用して、より積極的な広報活動に取り組んでいきたいと考えています。

Q10 県の情報の入手状況について

あなたは、得たいと思う県の情報を入手できていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

N=702



得たいと思う県の情報について「十分入手できている」「概ね入手できている」を選択した方は、合わせて46.2%（324人）となっている一方で、41.7%（293人）の方は「あまり入手できていない」「まったく入手できていない」と感じています。

得たいと思う県の情報については、今後も引き続き県民の皆さんのニーズを把握しながら、より適切な媒体による情報発信に取り組んでいきたいと考えています。

Q11 広報紙「県政だより みえ」の利用状況について

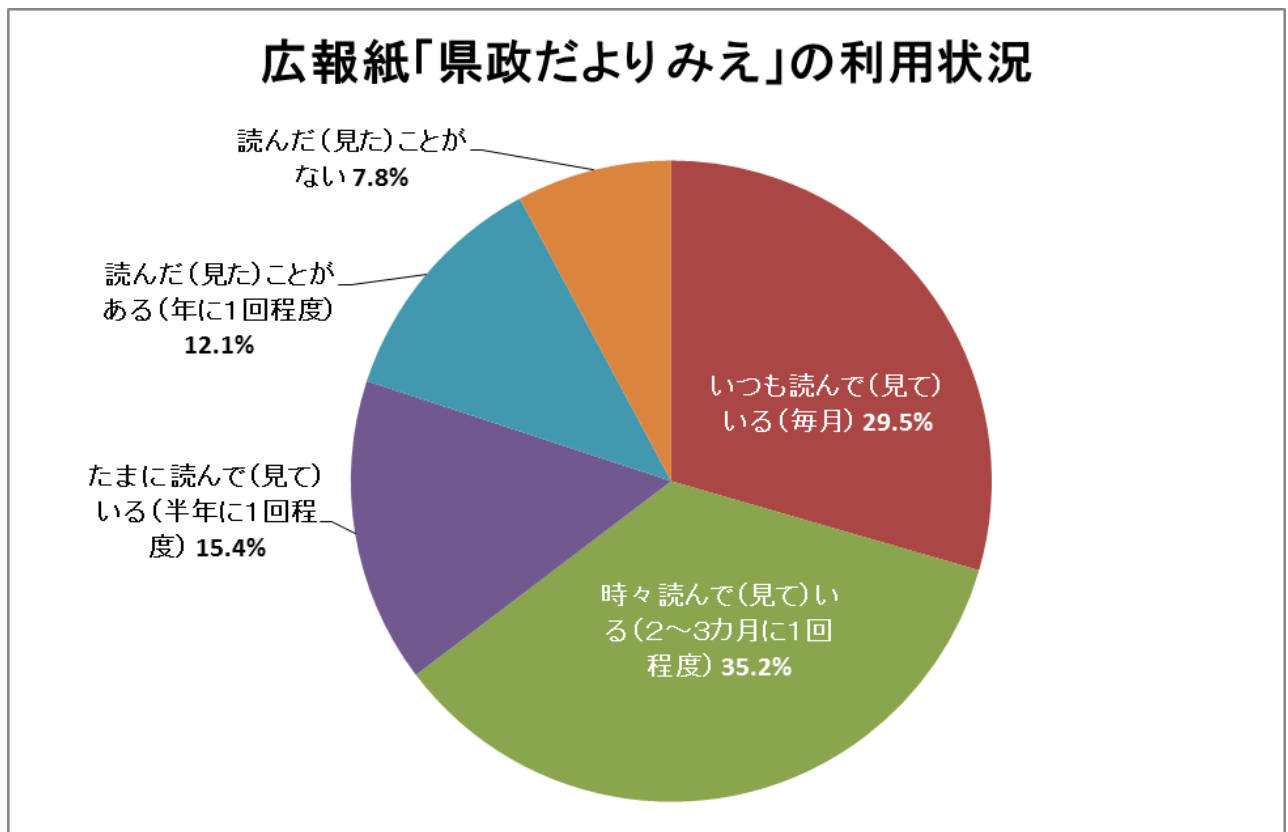
広報紙「県政だより みえ」は政策情報を中心に、毎月第1日曜日に新聞折り込みでお届けするほか、県および市町施設、スーパー、コンビニ、郵便局などの身近な施設に配置しています。

また、県のホームページ上でも、「県政だより みえ」のPDF版、電子ブック版、テキスト版、声の三重県だよりをご覧ください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/DAYORI/>

あなたは、「県政だより みえ」をご覧になっていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

N=702

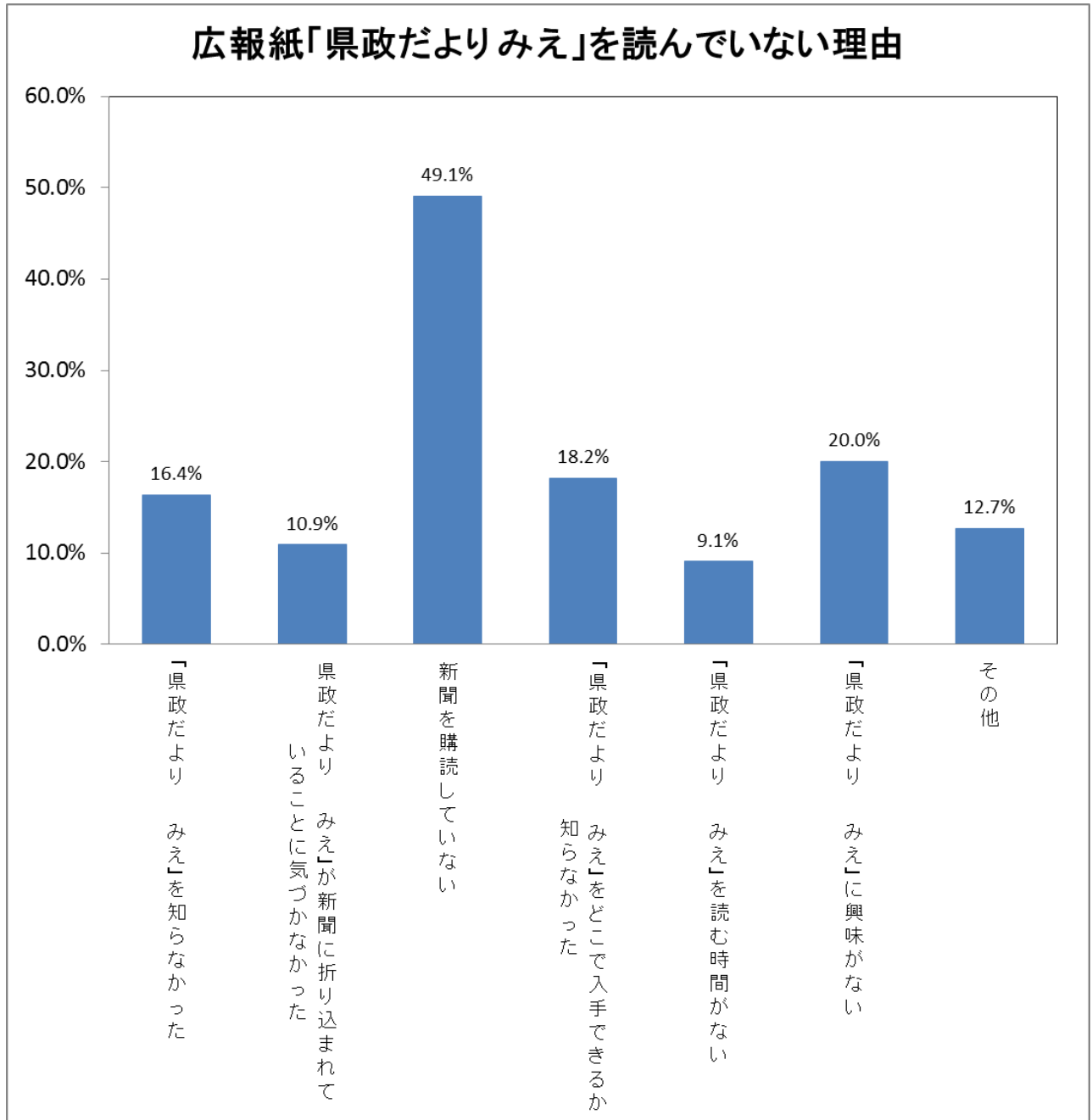


広報紙「県政だより みえ」について、「いつも読んで(見て)いる(毎月)」「時々読んで(見て)いる(2~3カ月に1回程度)」を選択した方は、合わせて64.7%(454人)となっている一方で、7.8%(55人)の方は「読んだ(見た)ことがない」としています。

Q12 広報紙「県政だより みえ」を読んでいない理由について

Q11で、「読んだ（見た）ことがない」を選択された方にお聞きします。あなたが、「県政だより みえ」を読んだ（見た）ことがない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

N=55



広報紙「県政だより みえ」を読んでいない理由について、「新聞を購読していない」が49.1%（27人）と最も多く、次いで、「「県政だより みえ」に興味がない」が20.0%（11人）、「「県政だより みえ」をどこで入手できるか知らなかった」が18.2%（10人）などとなっています。今後も県民の皆さんにより親しんで読んでいただけるよう、入手場所の周知と拡充を図るとともに、さらに掲載内容を充実し、県の情報を的確にお届けしていきたいと考えています。

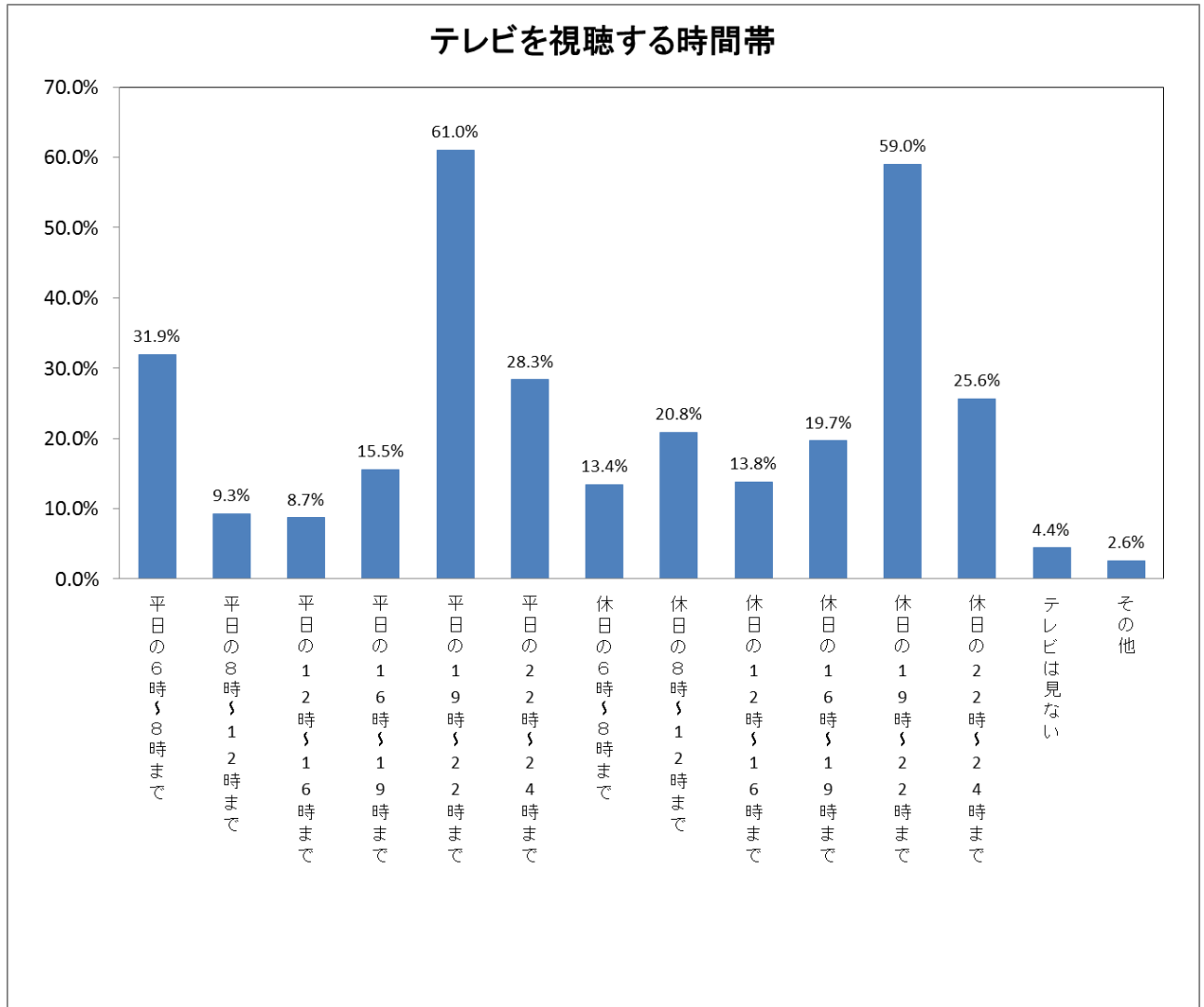
Q13 テレビを視聴する時間帯について

あなたが、普段よく見るテレビの時間帯について、あてはまるものをすべて選んでください。

※ここでのテレビとは、地上波放送のことで、衛星放送（BS、CS 放送）、有線放送（ケーブルテレビ）は除きます。

※回答項目の平日は月曜日から金曜日、休日は土曜日及び日曜日とします。

N=702

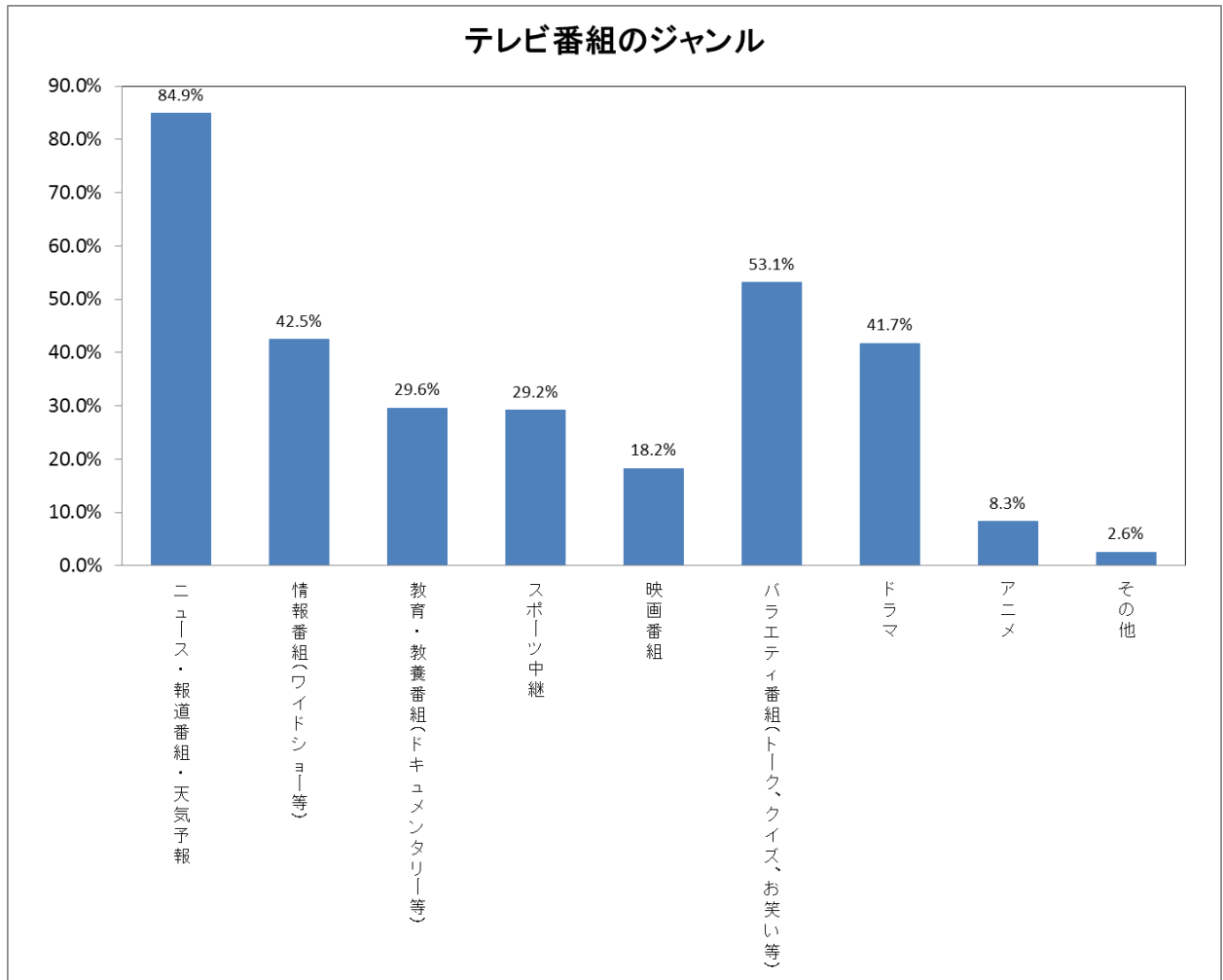


テレビを視聴する時間帯について、「平日の 19 時～22 時まで」が 61.0%（428 人）と最も多く、次いで、「休日の 19 時～22 時まで」が 59.0%（414 人）、「平日の 6 時～8 時まで」が 31.9%（224 人）などとなっています。

Q14 テレビ番組のジャンルについて

あなたが普段よく視聴するテレビ番組はどのようなジャンルの番組ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

N=702



テレビ番組のジャンルについて、「ニュース・報道番組・天気予報」が84.9% (596人)と最も多く、次いで、「バラエティ番組(トーク、クイズ、お笑い等)」が53.1% (373人)、「情報番組(ワイドショー等)」が42.5% (298人)などとなっています。

県広報番組については、費用対効果も考慮しながら、より多くの県の皆さんに見ていただける時間帯で放送できるよう検討していきたいと考えています。

Q15 さまざまな媒体を活用した情報発信の強化について

県では、県民の皆さんの情報入手手段が多様化している現状を踏まえ、平成31年4月から県政だより、フリーペーパー、テレビ、ラジオ、県のホームページ、SNSなどを効果的に連携させて活用することで、情報発信を強化していくこととしています。県から県民の皆さんへの情報発信について、ご意見がございましたらご記入ください。(自由回答)

※(参考)「県民の皆さんとの接点の拡大と充実」に向けた情報発信の強化

<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000818533.pdf>

「さまざまな媒体を活用した情報発信の強化」に対するご意見の一部を紹介します。

(情報発信方法について)

- ・多様なニーズに応えられるように、これからも積極的にさまざまな方法で情報発信をしてほしい。
- ・いろいろな世代の人が入手できるよう、情報入手手段がたくさんあることはよい。
- ・県民が興味を持つ情報発信をしてほしい。
- ・県民に分かりやすい情報発信を行ってほしい。
- ・ネット社会ではあるが、高齢者には不得意な分野であり、今後、いかに高齢者に安全で安心な情報を確実に伝えて行くべきかを考える必要があると思われる。
- ・若い世代10～30代の世代が興味を持てるような情報発信をしてほしい。
- ・若年層向けにスマートフォンでの情報発信は有効である。
- ・何か催し物があるにしても津ばかりで、長細い三重県の地理的な特徴を分かってくれていない。
- ・市町のイベントなども紹介して、地域を盛り上げてほしい。
- ・知事からのさまざまな情報を発信してほしい。
- ・お金をかけ過ぎずに効果的に広報してほしい。
- ・ショッピングモールなど人の集まる場所での情報発信は有効だと思う。

(広報媒体について)

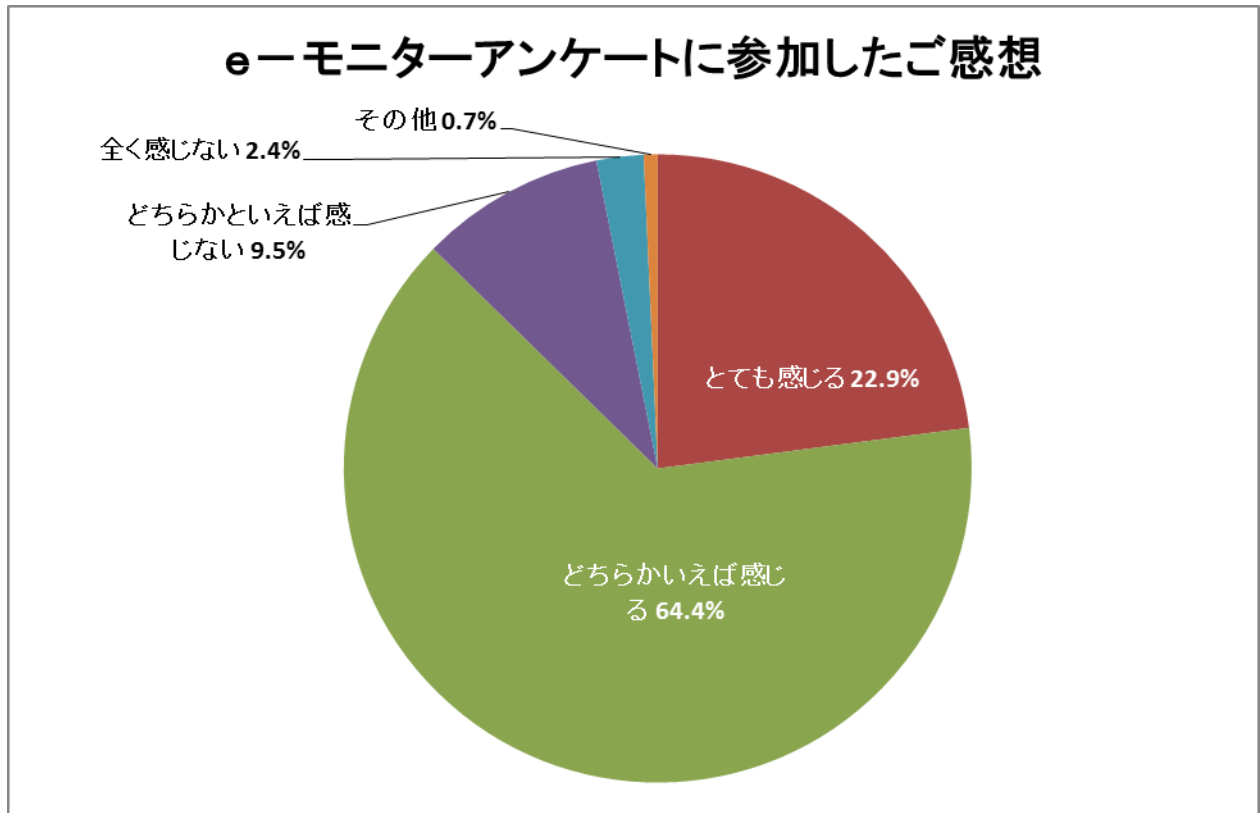
- ・ツイッターやインスタグラムを有効に活用することがさらなる情報の発信につながると思う。
- ・情報発信には信憑性の高い新聞やテレビで進めてほしい。
- ・県ホームページ等、求めるものが簡単に見つかる工夫をしてほしい。
- ・検索できる媒体の情報を充実してほしい。
- ・県政だよりが誰にでも手に入るようにしてほしい。
- ・ファミリーで参加できるイベントや、博物館などの施設に行ってみたくなるようなイベントなど、フリーペーパーでの情報発信を希望します。

いただいた意見につきましては、今後、さまざまな媒体を活用した情報発信の強化について検討していくための参考にさせていただきます。

Q16 e-モニターアンケートに参加したご感想について

この1年間、e-モニターとしてアンケートにお答えいただき、三重県政を身近に感じていただけるようになりましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

N=702



e-モニターアンケートに参加したご感想（三重県政を身近に感じていただけるようになりましたか）について、「とても感じる」「どちらかといえば感じる」を選択した方は、合わせて87.3%（613人）となっている一方で、12.0%（84人）の方は「どちらかといえば感じない」「全く感じない」となっています。